

令和2年度 第2回自立支援協議会定例会議（書面開催） 議事録

開催日：令和2年10月6日（火）

委員：出席29名、欠席0名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、書面形式にて会議を開催しました。

《協議事項・議事》

（1）内容

第6期荒川区障がい福祉計画・第2期荒川区障がい児福祉計画の素案について

（2）結果

承認する：29名 承認しない：0名

（3）委員からの意見

- ◇ 今回の協議会においては、出席された委員の声も少しずつ聞かれるようになってきているように伺えますが、議事について、その場の一読で意見を述べるのは容易なことではないので、しっかりと資料に目を通していただいて意見を述べてもらうことを周知してもらいたいです。議事のなかで意見が出ているように、コロナウイルス問題による自立支援協議会のあり方を検討する必要を感じます。
また、保健・福祉の連携で精神障がい者の対応だけでなく、難病者への活動が脆弱にならないよう取り組む必要があると思います。
- ◇ 障がい者施策のニーズが多様化する中、11月から基幹相談支援センターが開設されるので事業者間の連携も取りやすくなり、事業所としても安心して業務ができそうです。
- ◇ コロナ禍の影響かとは思いますが、基幹相談支援センターの開設情報が地域に周知しきれていないように感じます。今後、相談支援の中核となるよう期待しています。
荒川生活実習所でも、保護者が倒れた時、支えてくれるサービスが不足していると感じることがあります。地域生活支援拠点の充実は多くの方が望んでいることと思います。私も施設の代表として、自立支援協議会の一員として、地域に暮らしている障がい者の皆様の支援者となれるよう努力して参ります。
- ◇ 障がい者総合プランにより、生涯住み続けられる地域を目標に具体的な施策を打ち、実現させてきたことがわかりました。本校（墨田特別支援学校）は知的障がいの特別支援学校で、荒川・墨田・台東・足立から通学してきています。在学中から卒業後まで多くの支援を受けることが豊かな暮らしの実現につながると存じます。引き続き、よろしく願い申し上げます。

- ◇ 計画にある「グループホームの整備の推進」に関して、親亡き後の願いを込めて設立されたグループホームも、利用者本人の高齢化や重度化により様々な課題が出ています。
物理的に足腰が弱くなる利用者への対応(現状老朽化した一軒家を主としたグループホームではバリアフリー化が困難)仮にバリアフリーが確保されても高齢化・重度化が進行して通所施設にも通えなくなりグループホームでの生活が困難な場合への対応(グループホームが終の棲家になるのか) 体調管理や薬の管理などより一層医療との連携が必要等々の課題が考えられますし、実際に高齢の方が利用しています。
また、高齢でなくとも健常者以上に高齢化が早く進むと思われる方もあります。計画では「地域全体で支えるシステム」とありますが、期待とともに具体的な対策がありましたら、ぜひ教えて頂きたいです。
- ◇ 計画にある「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムについて」に関して、精神障がい者の地域活が包括的、かつ継続的に進められるために、地域の医療、保健、障がい及び高齢者福祉等、精神障がい者の生活を支えるための具体的な連携体制が確保されていることを再確認できればと思います。協議の場等において多面的な視点からの意見交換の機会があることを期待しています。
また、精神障がい者の地域移行にあたっては、長期入院中の精神障がい者が、地域生活を体験し退院後のイメージ作りができることも必要です。今期に引き続き、次期の計画でもグループホーム等を活用した精神障がい者のショートステイ事業の設置検討に官民協同で取り組み、即時性のある体験入居の機会が確保されることを希望します。
- ◇ 計画を推進するため、精神障がいに関して、当事者は内部障がい(頭の神経伝達物質)によって障がいをもたされていることを理解してもらいたいです。先日は、朝、都電の中でパンを食べて服用し、午前中アルバイトを終えて、昼は荒川遊園のハンバーガー屋で食事、服用して午後2時～2時半に家に帰り、午後7時に夜の食事・服用をしました。夜は雨が降り、町屋のATMに行くつもりでしたが、途中のゆいの森で、うつ気味で幻聴(人の声・雑音)が生じて、不安で八方塞がりの状態でいてもたってもいられず、ATMにも寄らずに家に引き返しました。疲れていたため、夜10時にヨーグルトとブルーベリーを食べて服薬して就寝しましたが、うつ状態が続いたのでジャムを食べて、ようやく状態が落ち着きました。具体が悪いときは、歩くのがやっとの状態です。

以 上